令和８年度　第１回八雲町総合開発委員会議事録（要旨）

【開催日時・場所】

令和８年 10 月７日（水）　午後１時 30 分～午後３時 30 分

八雲町役場２階 第１・第２会議室

【出席者】

別紙のとおり

【議題】

１　開　会

２　委嘱状交付

八雲町校長会の植田資世委員、連合北海道八雲地区連合会の佐藤行哉委員に対し、町長から委嘱状が交付。

３　町長あいさつ

本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。また、日頃からそれぞれの立場で八雲町のまちづくりにご理解とご協力をいただいておりますことに感謝申し上げます。総合開発委員会は、様々な分野の現場の声や、これからの八雲町についての意見をいただく重要な場であります。

本日は第２期総合計画の令和７年度の取組を振り返るとともに、第３期総合計画の策定について議論いただきます。第２期計画の残り２年間を見据えつつ、今後の八雲町をどうしていくのか、皆様とともに考えることが大切であると思っております。

八雲町には、農業、太平洋と日本海の二つの海に支えられた漁業、豊かな食、そして八雲・落部・熊石それぞれの歴史や文化があります。三つの地域が一体となってまちづくりを進めるとともに、第３期総合計画は役場だけでつくるのではなく、町民と一緒につくり上げる計画にしたいと考えています。

北海道新幹線の新八雲駅開業も見据え、駅で降りた方をまちなかに誘導し、食、体験、宿泊につなげる仕組みをつくることも重要です。八雲らしさとは何か、将来に何を残していくべきかについて、忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

4　会長あいさつ

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。朝晩冷え込む時期となり、感染症も流行していると聞いておりますので、皆様におかれましては体調にご留意いただきたいと思います。事前にお配りしている資料も踏まえ、委員の皆様から忌憚のないご意見をいただきたいと思います。円滑な議事進行にご協力をお願いいたします。

5　報告事項

（1）第２期総合計画　令和７年度事業費・実施内容、KPI 進捗状況の評価について

別紙資料１に沿って、岡島政策推進課企画係長より説明。

【佐藤（馨）委員】

資料１の 10 ページにある「八雲町Ｕ・Ｉターン就職奨励金事業」について、制度の具体的な内容と利用実績を教えていただきたい。

【石坂商工観光労政課長】

この事業は、産業の担い手確保と労働人口の減少抑制を目的に、Ｕターン・Ｉターンにより八雲町内の事業所に正規雇用された方に就職奨励金を交付するものです。令和７年度までは、１年目に 30 万円、２年目に 20 万円分の町内商品券を交付しておりました。

令和８年度からは、就職後の早期退職の事例も踏まえて制度を見直し、就職後１年が経過した時点で 30 万円を交付する仕組みに変更しております。

【佐藤（馨）委員】

令和７年度の交付対象者は何人でしょうか。

【石坂商工観光労政課長】

令和７年度は、１年目の対象者 32 人に各 30 万円、合計 960 万円を交付しております。また、２年目の対象者 33 人には各 20 万円分の町内商品券、合計 660 万円分を交付しております。

【小笠原委員】

資料１の 17 ページにある「八雲町自立促進プロジェクト」は、農業生産額と漁業生産額が既に目標を達成しているものの、生産額は物価や社会情勢によって変動します。金額だけで「自立」が実現できたかを評価するのは不十分ではないでしょうか。

自立促進という目的に沿って、金額以外の観点からも成果を確認できる指標を考える必要があると思います。

【宮下政策推進課長】

第２期総合計画では、生産額を数値目標として設定しておりますが、年度ごとの変動があることは認識しております。第３期総合計画では、金額で示す指標のほか、別の観点から評価できる指標についても検

討していきたいと考えています。

【小笠原委員】
ぜひ「自立」をキーワードにした指標を設定していただきたいと思います。

【稗田委員】
資料１の３ページにある「有害駆除対策事業」と「有害鳥獣駆除事業」は、名称が異なりますが、事業内容にも違いがあるのでしょうか。

【加藤農林課長】
有害鳥獣への対策は八雲地域と熊石地域のそれぞれで実施しており、事業名称は異なりますが、内容は同様のものです。「有害駆除対策事業」が八雲地域、「有害鳥獣駆除事業」が熊石地域に該当します。

【稗田委員】
ヒグマの駆除について、実際に被害を生じさせた個体や人に危険を及ぼす個体だけを駆除しているのでしょうか。被害と関係のない場所に箱わなを設置すると、人との接触を避けているクマまで駆除し、かえって住民の危険につながるおそれがあるのではないかと考えています。

【加藤農林課長】
箱わなは、現に被害や出没があり、人身被害のおそれがある箇所に設置しています。北海道から必要な許可を受けており、むやみに設置しているものではありません。

【近藤委員】
「安全なクマ」とは具体的にどのようなクマを指すのでしょうか。私自身、駆除隊の活動に関わっていますが、出没の通報があった場合は現場確認や巡回を行い、銃器を使用できない場所などでは必要な手続きを踏んで箱わなを設置しています。
自然環境や野生動物の保護は大切ですが、住民の命や農作物への被害も考えなければなりません。ハンターや農業関係者、行政が情報を共有し、地域全体で対策を考えていくことが必要だと思います。

【佐藤（馨）委員】
ヒグマは町内のどの辺りで多く出没しているのでしょうか。また、町では出没情報をどのように把握・公表し、出没した際にどのような対応を行っているのでしょうか。

【加藤農林課長】
役場や警察に目撃情報や被害の報告があった際は、関係機関で情報を共有しています。通学路などに影響がある場合は教育委員会や学校に連絡し、児童生徒の安全確保を図るほか、農家には必要に応じて個別に情報を提供しています。
警察による報道発表がすべての目撃情報を網羅しているわけではありません。町ではホームページに掲載しているヒグマ出没情報の地図（ヒグマップ）により、目撃場所等を公表しております。

【大野会長】
時間も限られておりますので、次の報告事項に移ります。

（２）第３期総合戦略　進捗状況報告（令和７年度末）について
別紙資料２に沿って、岡島政策推進課企画係長より説明。

【鎌田委員】
資料２の基本目標１に示された漁獲高の数値は、どの資料を出典としているのでしょうか。また、資料１の17ページにある漁業生産額とは数値が大きく異なりますが、整合性は確認されているのでしょうか。

【岡島政策推進課企画係長】
資料２の漁獲高の実績値は、グラフに出典を記載しております「北海道水産現勢」を使用しています。資料１の「漁業生産額」と資料２の「漁獲高」は別の指標として整理しており、現時点で数値の突き合わせまでは行っておりません。

【鎌田委員】
漁業生産額と漁獲高は名称が異なるものの、数値の乖離が大きいと感じます。資料１の漁業生産額の出典も含めて確認が必要ではないでしょうか。

【岡島政策推進課企画係長】
資料１の漁業生産額は水産課から提供を受けた数値です。出典や数値の考え方について担当課に確認いたします。

【阿部委員】
本日の会議は資料１から資料３まで順に説明を受けて質疑を行う進め方ですが、資料３の最後にある「意見交換」はいつ、どのように実施するのでしょうか。事前に意見を記入する用紙も配布されており、意見交換に十分な時間が確保されているのか疑問があります。

【宮下政策推進課長】
本日は第２期総合計画と第３期総合戦略の進捗を報告した後に、第３期総合計画について説明し、委員の皆様からご意見をいただく予定です。意見交換は余った時間に行うという趣旨ではなく、次期計画策定に向けた重要な内容と考えております。進行に至らない点があり申し訳ありませんが、できるだけ多くの意見を伺いたいと思います。

【阿部委員】
資料２の基本目標４に「人が移り住み、定着したくなる魅力的なまちをつくる」とあります。熊石地域では、旧熊石高校教員住宅を改修した移住・滞在施設「くまこう館」が開設されましたが、八雲町のホームページのトップページから施設情報にたどり着きにくい状況です。せっかく施設を整備したのに、十

分に周知されていないのではないでしょうか。
開設後の利用状況や、現在行っている広報・利用促進策について教えていただきたい。

【田村地域振興課長】
「くまこう館」は、熊石地域の活性化と移住・定住の促進を目的とした滞在施設です。指定管理者の株式会社ビーコネクトに管理を委託し、団体による施設ホームページの開設、ＳＮＳでのＰＲ、町ホームページへの掲載、パンフレットの配布などを行っております。
パンフレットは函館空港、函館駅、新函館北斗駅、近隣の道の駅などで配布しております。また、施設の内覧会や地域の方も参加した施設改修・交流の取組を実施しており、開設後は町外からの滞在利用もあります。関西方面から訪れたご夫婦が約１か月滞在した例もあり、利用者は自家用車やレンタカーを使いながら周辺地域を訪れている状況です。

【阿部委員】
町ホームページから、施設の存在を知らない人でも簡単に情報へアクセスできるよう改善していただきたいと思います。
また、移住や多拠点生活に関心のある方の中には、旅先で農業の手伝いをしたり、短期就労やリゾートバイトをしながら滞在したりする方もいます。そうした就労・体験の仕組みを踏まえることで、八雲町を最初から目的地にしていない方にも来訪の入口を広げられるのではないでしょうか。熊石地域だけでなく、八雲・落部地域でも同様の取組を検討する必要があると思います。

【小笠原委員】
資料２では、新規就農者数や農業研修者数が令和７年度に０組となっています。第１次産業が町を支えていることを考えると危機的な状況ではないでしょうか。こうなった要因や今後の対応を伺いたい。また、第３期総合計画でも担い手確保を重要課題として位置付ける必要があると思います。

【加藤農林課長】
令和７年度の新規就農者数は０組でしたが、現在研修中の方がおり、令和８年度当初に就農した方もいます。これまでは毎年１～２組程度の新規就農がありましたが、令和７年度は数値として計上されなかったという状況です。
引き続き研修生の募集や受入れ、農業法人への就業や就農など幅広い入口を設け、産業の担い手確保に努めていきたいと考えています。

【小笠原委員】
農業研修者も０組とされていますが、研修中の方がいるのであれば、指標の数え方はどうなっているのでしょうか。

【加藤農林課長】
従来の農業研修生という形ではなく、地域おこし協力隊として受け入れ、農業支援などに従事している方もいます。そのため、今回の農業研修者数には計上されていない部分があり、今後、指標の捉え方を整

理したいと考えております。

【小笠原委員】
制度そのものが、関心のある方に十分伝わっていないのではないでしょうか。大学の学生にも紹介できますので、大学や関係機関と連携し、積極的なＰＲを行っていただきたいと思います。

【稗田委員】
資料２の檜山管内サケ回帰率について、噴火湾側でも同様の状況なのでしょうか。サケ資源の減少は地球温暖化だけでは説明できず、河川環境など他の要因もあるのではないかと考えています。

【鎌田委員】
サケの回帰や資源の減少については、道内外の多くの研究機関や国、道などで原因究明が進められています。河川ごとの状況なども含め、さまざまな要因が考えられますが、現時点で明確な原因は判明しておらず、漁業関係者も対応に苦慮しております。

（３）第３期八雲町総合計画策定について
別紙資料３に沿って、第３期八雲町総合計画策定支援受託者である株式会社 KITABA の安達より、策定体制・スケジュール、各課ヒアリング結果、現況分析、町民等の意見把握の進め方について説明。

【佐藤（智）委員】
株式会社 KITABA に今回の総合計画策定支援を委託した経緯について、契約方式や選定時期を教えていただきたい。

【宮下政策推進課長】
令和８年６月にプロポーザル方式で事業者の審査・選定を行い、選定された株式会社 KITABA と随意契約を締結しております。

【阿部委員】
これまでの総合計画を踏襲するだけでは、今後の八雲町の財政状況に対応できないのではないでしょうか。病院会計や一般会計の基金について、将来的な減少・枯渇を危惧する声があり、これまでの規模で歳出を続けることは難しいと考えています。
第３期総合計画は、財政規模が縮小していくことを念頭に、従来とは異なる視点で策定する必要があります。一方で、産業振興への投資まで一律に抑制するのではなく、重要な事業には重点的に予算を配分する「選択と集中」が必要であると思います。

【小笠原委員】
策定支援事業者の説明に対して、委員が意見する進め方には少し違和感があります。町が主体となって方向性を検討し、コンサルタントがどのような役割で支援するのか、行政と事業者の関係性を明確にしていただきたい。

また、無作為抽出による住民アンケートは、回答する方のまちづくりへの関心や真剣度によって内容が変わるのではないでしょうか。

【宮下政策推進課長】
今回の資料はコンサルタント独自の方針を示したものではありません。町が基本方針を伝え、その内容に基づいて事業者と調整しながら作成しております。策定の主体は八雲町であり、支援事業者と一緒に作業を進めています。

【岡島政策推進課企画係長】
アンケートについても、町と受託者で調査内容や必要な情報について意見交換・調整を行った上で設計しております。集計・分析は受託者が中心となって実施しますが、回答内容や分析結果は町でも確認し、検討していく体制です。

【小笠原委員】
アンケートでは、まちづくりに強い思いを持っている方の意見こそ重要だと考えます。そうした方の声は、どのように把握していくのでしょうか。

【安達（株式会社 KITABA)】
無作為抽出の住民アンケートでは、特定の関心層に偏らない幅広い住民の意向を把握したいと考えております。一方、まちづくりに強い思いや具体的な意見を持つ方には、地域懇談会や団体懇談会などの対話の場に参加していただき、より詳しくお話を伺いたいと考えています。

【稗田委員】
計画は、これまでの取組がうまくいかなかった原因を検証し、その反省や改善策を踏まえて新しい方向性を考えるものだと思います。外部のコンサルタントに最初から任せるのではなく、町自身が過去の事業を評価し、主体的に考えることが重要ではないでしょうか。
再生可能エネルギーの導入についても、八雲町の自然環境や地域特性に適したものとそうでないものを区別し、十分に検討していく必要があると思います。

（第３期総合計画策定に向けた意見交換）
事前に配布した「次回に向けた検討ワークシート」等を踏まえ、今後 10 年間で大切にしたいことや地域ごとの将来像などについて次のとおり意見交換を行った。

【鎌田委員】
AI の技術は非常に速い速度で進歩しており、人口減少や人手不足など、町が抱える課題の中には AI の活用によって解決や効率化が期待できるものがあります。第３期総合計画の内容・施策また、その策定でも、AI を活用していっていただきたいと思います。
また、漁業や農業では多くの外国人材が働いています。特定技能２号へ移行すると家族の帯同も可能になるため、外国人材の定着や生活支援を進めることは、担い手確保だけでなく人口減少対策にもつなが

ると考えます。
「二つの海を持つまち」という特徴は、大きな魅力である一方で地域ごとに課題もあります。地域の強みを生かしながら、今後は選択と集中を図ることが重要だと思います。

【稗田委員】
再生可能エネルギーについては、既存のダムを活用した小水力発電が河川環境への負荷を残すおそれがあり、これ以上の導入には慎重であるべきと考えています。また、陸上風力発電は、水源かん養保安林や土砂流出防備保安林の解除、山林の改変、事業終了後の巨大構造物の残置などの問題が懸念されます。
一方、八雲町には家畜排せつ物を利用したバイオガス発電や、既存の建物に設置できるペロブスカイト太陽電池など、地域特性に適した選択肢があると思います。また、発電した電力を地域内で利用する地産地消型の取組を重視してほしいと考えています。
サケ資源についても、河床に砂や泥が堆積すると産卵した卵の生育環境が悪化すると考えています。他地域で河川環境の改善によりサクラマスなどの資源回復が見られた例も踏まえ、人工ふ化・放流だけでなく、自然産卵・繁殖ができる河川環境の再生を総合計画に位置付けていただきたいと思います。

【佐藤（馨）委員】
八雲町は先人が築いてきた豊かな自然、農業・漁業などの第１次産業、歴史・文化を有するまちです。これまでの歩みを大切に受け継ぎつつ、新しい発想で未来へつなげていただきたいと思います。
人口減少への対応として、自然環境と調和し、公害を生じさせない時代に即した企業誘致を進めることが必要ではないでしょうか。また、自衛隊と八雲町が共存共栄していくことも大切だと思います。
八雲・落部・熊石それぞれの自然や景観、観光資源を生かし、観光振興に力を入れていただきたい。特に熊石には、澄んだ日本海や歴史に彩られた名所など、さらに磨くことのできる魅力が多くあります。
地域の支え合いについては、ひとり暮らしの高齢者が増え、身近に頼れる人がいない方もいます。医療や福祉の場面で困った際に相談・支援を受けられる体制や、地域の連携を充実させていただきたいと思います。

【阿部委員】
今回の意見交換は、町として意見を収集するためのものなのか、委員同士で考え方を共有するためのものなのか、趣旨が分かりにくいと感じています。今回示された設問は非常に大きなテーマであり、短い時間に簡単に答えられる内容ではありません。十分な意見交換の時間を確保してほしいと思います。

【宮下政策推進課長】
意見交換は、八雲町として委員の皆様の考えを伺い、受託者と共有した上で第３期総合計画の検討材料としていくことを目的としています。

【阿部委員】
八雲町には豊かな自然や歴史・文化など多くの資源がありますが、資源を列挙するだけではなく、それをどのようにまちづくりや産業振興につなげるかを検討することが重要です。意見交換のテーマに対して本日の時間配分は十分でないと感じます。

また、八雲・落部・熊石の地域別に整理することについても、合併から長い時間が経過した町として、一体的なまちづくりの観点を失わないように考えるべきではないでしょうか。

【井口委員】
地域にはそれぞれ固有の課題があるため、まず各地域の状況を把握し、その課題をどう生かしていくのか考えることが重要だと思います。第１回の会議でもありますので、前向きに意見を出し合いながら検討を進めていくべきではないでしょうか。

【小笠原委員】
事前に配布されたワークシートには、それぞれ考えたことを記入してきていると思います。限られた時間内で全てを発言するのは難しいため、まず記入済みの用紙を回収し、その内容を整理して次回の委員会で改めて議論するのがよいと思います。

【竹内副町長】
委員の皆様それぞれにお考えがあると思います。ご記入いただいたワークシートを回収して事務局で整理し、次回の委員会で内容を共有した上で、改めて検討していただく形で進めたいと考えています。

６　その他

事務局より、次回の総合開発委員会は年明け１月の最終週頃を予定しており、詳細は改めて開催案内により周知する旨を説明。また、「次回に向けた検討ワークシート」に記入した委員は、用紙を事務局へ提出するよう案内。

７　閉　会

令和８年度　第１回八雲町総合開発委員会出席者名簿

No.	区分	氏名	所属	備考
1	会長	大野 尚司	八雲町町内会等連絡協議会	
2	委員	井口 啓吉	熊石町内会等連絡協議会	
3	委員	近藤 安幸	八雲商工会	
4	委員	小林 孝子	八雲商工会女性部	
5	委員	影浦 義和	新函館農業協同組合北渡島運営委員会	
6	委員	久保 扶佐子	八雲町漁業協同組合女性部	
7	委員	鎌田 和弘	落部漁業協同組合	
8	委員	戸田 孝雄	八雲町社会福祉協議会	
9	委員	佐藤 行哉	連合北海道八雲地区連合会	
10	委員	植田 資世	八雲町校長会	
11	委員	古澤 新一	八雲町スポーツ協会	
12	委員	天野 裕司	北海道労働金庫八雲支店	
13	委員	小笠原 英毅	北里大学獣医学部	
14	委員	青沼 千鶴	司法書士・行政書士やまびこ事務所	
15	委員	政田 翔太	若人の集い	
16	委員	阿部 政邦	一般公募	
17	委員	佐藤 馨	一般公募	
18	委員	佐藤 智子	一般公募	
19	委員	稗田 俊一	一般公募	
20	町	萬谷 俊美	町長	
21	町	竹内 友身	副町長	
22	町	西田 浩人	教育長	
23	町	川崎 芳則	総務課長	
24	町	竹内 伸大	新庁舎建設推進室長	
25	町	田中 智貴	危機対策課長	
26	町	井口 貴光	財務課長	
27	町	戸田 淳	政策推進課参事	
28	町	相木 英典	保健福祉課長	
29	町	横田 盛二	建設課長	
30	町	上野 誠	環境水道課長	
31	町	石坂 浩太郎	商工観光労政課長	
32	町	加藤 貴久	農林課長	
33	町	三坂 亮司	学校教育課長	
34	町	田村 春夫	地域振興課長	
35	町	福原 光一	八雲総合病院事務長	
36	町	宮下 洋平	政策推進課長	事務局
37	町	高嶋 一登	政策推進課長補佐	事務局
38	町	岡島 孝明	政策推進課企画係長	事務局
39	業務委託	安達　重好	株式会社 KITABA まちづくり計画部長	事務局
40	業務委託	品田　康太	株式会社 KITABA まちづくり計画部マネージャー	事務局